

学期	単元名	学習活動・内容	評価の主な観点			評価の規準	評価のための判断材料
			主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能		
1 学期	地球とはどんな惑星か。 地層や化石の持つ意味とはどのようなものか。(14) 植生遷移とは何か。 世界と日本のバイオームにはどんな特徴があるのか。(14)	かたち 大きさ 特徴 風化 堆積 思想 岩石 化石 環境と生物 光の強さと光合成 森林階層構造 土壌形成 年平均気温と年間降水量	○	○	○	エラトステネスによる測定をもとに、計算によって地球の大きさを求めることができる。 地球の形と大きさの測定の歴史について意欲的に学習しようとしている。地球楕円体、緯度 1° あたりの経線の長さの測量について理解し、知識を身に付けている。 風化のしくみや河川の働きから、地層の形成について理解し、知識を身に付けている。 風化と河川の働きに関心をもち、地層の形成過程について意欲的に探究しようとしている。 生物的環境と非生物的環境との関係について、作用や環境形成作用に結び付けて、説明することができる。	観察実験・レポート・授業態度・発言・定期考査など
2 学期	地球と生物の変遷について、これまでにどのようなことがわかっているのか。(14) 生態系と保全について、将来的に重要なことは何か。(14)	冥王代 太古代 原生代 古生代 中生代 新生代 多様性 食物連鎖 食物網 物質生産 キーストーン種 外来生物 生物濃縮 オゾン層 二酸化炭素量	○	○	○	さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石、相対年代と数値年代の違いについて理解し知識を身に付けている。 地質時代の区分について理解し、知識を身に付けている。 化石による地質時代の区分を行う実験を通して、生物の変遷と地質時代の区分の関係を確認することができる。 先カンブリア時代から新生代第四紀までの、地球と生物の変遷を理解し、知識を身に付けている。 生物多様性を 3 つに分け、知識を整理することができる。 生物どうしのつながりと、その複雑さを図示して簡潔に示すことができる。 物質生産の観点を学び、エネルギー的な生態系メカニズムについて、学んだことをまとめて発表できる。	観察実験・レポート・授業態度・発言・定期考査など
3 学期	生物の特徴とは何か。(14)	共通性 多様性 進化系統 原核生物と真核生物 細胞の構造 代謝 エネルギー	○	○	○	生物進化の道筋を考えて表現したものが系統であることとを理解できる。 原核生物と真核生物の違いを細胞レベルで簡潔に説明できる。 代謝を異化と同化に分けて図示して説明できる。 細胞の顕微鏡観察を意欲的に学ぶことができる。	観察実験・レポート・授業態度・発言・定期考査など